第 1 回文化遺産学交流会

2008 年 10 月 17 日（金）
関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター

関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センターでは、2008 年に最初の文化遺産学交流会を開催した。交流会の目的は、他の研究センターの活動を知り、交流を深めていく点にある。また、当センターは地域連携を活動の柱としているので、他の研究センターが進めている活動状況を知ることによって、調査・研究の視点や、今後の進展を改めて模索することも目的の一つといえる。

最初の交流会でお迎えしたのは、山形県の東北芸術工科大学東北文化研究センターである。東北文化研究センターは、2002 年度から 2006 年度にかけて、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（オープン・リサーチ・センター整備事業）に採択された。研究課題である「東アジアのなかの日本文化に関する総合的な研究」では、東アジア地域を手がかりとした、新たな日本文化像の構築に向けた研究および、その成果の公開を進めてきた。この事業では、東アジア研究という観点から、さまざまな分野の研究者をつなぐ、ネットワークづくりが成果をあげた。さらに研究の一環として、「東北文化研究センターデジタルアーカイブス」が構築された。このアーカイブスは、国内および東アジアの近現代の絵はがき、写真や映像、論文・書籍をまとめたもので、これらの資料を生業・風俗・景観などのテーマに分類し、データベース化をはかった。特に絵はがきのコレクションは、2007 年時点で約 20,000 枚にもおよび、近代の生活の様子を知る上で貴重な資料群である。

こうした研究事業が進められる一方で、東北地方では、農山漁村集落の少子高齢化にともない、廃村や集落の解体または再編成が進んだ。東北文化研究センターでは、東北地方がかかえている現状にむきあうため、新たに 2007 年度から 2011 年度にかけて、第 2 期目のオープン・リサーチ・センター整備事業「東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態的総合研究」を研究課題として立ち上げた。この新規事業は、過去 5 年間の研究事業の成果を踏まえたうえで、東北地方の現状に応えるため、2 つのプロジェクトで構成されている。プロジェクト 1 の「東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態的研究」では、具体的な調査研究を基盤とした議論を展開している。プロジェクト 2 の「映像アーカイブの高度な活用に関する研究」では、調査研究を核として、映像資料のデジタルアーカイブ・データベース化の公開と、その地域資源としての活用を提案している。特に、東北文化研究センターでは、地域文化の活性化という点から、文化による地域づくりを提案する取り組みが、すでに第 1 期目のオープン・リサーチ・センター整備事業のころから進められてきた。

地域との交流という点では、なにわ・大阪文化遺産学研究センターの活動の柱である「地域連携」の取り組みにつながるものがある。今回の交流会では、東北文化研究センターの多岐にわたる活動と地域連携について菊地和博氏と岸本誠司氏からお話をうかがい、なにわ・大阪文化遺産学研究センターの活動との共通点・相違点をさぐる絶好の機会となった。

（藤岡 真衣）